

# 障害を扱う絵本のリストに関する文献的検討

糟谷知香江・坂田清美

VISIO No.45

九州ルーテル学院大学  
Kyushu Lutheran College

December 2015

# 障害を扱う絵本のリストに関する文献的検討

糟谷 知香江・坂田 清美

A Review of Lists of Picture Books Related to Disabilities

Chikae Kasuya, Kiyomi Sakata

## 研究背景

近年、障害の有無にかかわらず互いを尊重し合いながら共に生きる社会作りが目指されるようになってきている。こうした社会を実現するためには、一般の人々の障がい者に対する親和性を高める必要があり、障害について子どものときから学ぶことはこの一助となるだろう。学校では、障害を理解するための教育として、障がい児学級・特別支援学校の児童生徒との交流学习、また点字・手話・アイマスク・車イス等の体験学習が実施されている。これらと並んで盛んなのが、絵本や児童文学などの読み物教材による学習である（黒川・是永，2006）。交流学习・体験学習には子ども自身が経験を通して学ぶという利点がある一方、読み物教材による学習には実施上の制約が少ないという利点がある。本論では障害に関する絵本を取り上げるが、これは2つに大別される。一つは障がい者が描かれていたり、障害について学ぶことのできる絵本である。もう一つは、点字絵本や音声のついた絵本など、障害のある子どもたちのために作られた絵本である（攪上，2015）。本論では前者について検討する。

絵本による学習には、実施の簡便さ以上の積極的な意義があると考えられる（水野，2008；富永，2011）。まず、障がい者をめぐる短いストーリーが具体的に展開される点である。子どもは、ストーリーを通して障がい者の日常生活の一面に触れながら、障害に関する知識を身につけることができる。また、視覚を通じた理解も絵本の利点である。絵が登場人物をイメージしやすくするうえに、言葉の習得が未熟な幼児でも挿絵を通して内容を理解できるであろう。

学校・幼稚園・保育園などにおいて絵本の読み聞かせは日常的に行われている活動であるものの、障害を扱う絵本の読み聞かせ実践には難しい点もある。その一つは絵本の選択である（水野，2008）。絵本を選択するための情報が少ないと、どの絵本を読んだらよいかかわりづらく、結果的に特定の絵本ばかりが教材として活用されることになる。たとえば、『さっちゃんのみほうのて』（田畑精一・先天性四肢障害児父母の会・野辺明子・志沢小夜子，1985）は障害理解教育において多用されている絵本である（富永，2011）。このような優れた絵本であっても、一作品の中で取り上げられているのはたいてい一つの障害である。しかし一口に障害といっても、その現実様々である。より多様な絵本を教材として活用できれば、その時々の子どもたちの実体と課題に応じた障害理解の学習が可能となる。このためにはブックリストの整備が不可欠である。

絵本における障害の描かれ方、そして障害に関する絵本の出版状況は、障害をめぐる社会的認識の変化が反映されている。桂（2006）によれば、1970年代までは障害のある人が登場する絵本の出版数はあまり多くなかったが、「国際障害者年」（1981年）および「国連・障害者の十年」（1983～92年）を経て出版数が増えていった。全体としては肢体不自由を扱った作品が多く、知的障害を扱った作品は少数である。近年になって、LD、ADHD、自閉症を扱った作品が出版されるようになってきている。一方、絵本ではなく、より年長の子ども向けの児童文学には知的障害を扱った作品が多くある。

障害をテーマとする絵本を紹介した書籍としては、『やさしさと出会う本：「障害」をテーマとする絵本・児童文学のガイド』（菊地・長谷川・荒，1990）がある。収録の範囲は、子どもを読者対象とし、第二次世界大戦後に刊行された、障がい問題にかかわる絵本および児童文学（翻訳を含む）で、単行本であるもの（短編を除く）となっている。65点の絵本・児童文学の内容紹介とともに、185点のリストが掲載されている。また、山口・山田・障がい児と児童文学研究会（1998）は、対象を知的障害に絞って絵本・児童文学を用いた授業例を紹介しており、巻末に48点の絵本・児童文学のリストが付けられている。なお、このリストの作成にあたっては菊地ら（1990）が参考資料の一つとされている。水野（2008）は、障がい者あるいは周囲と異なる身体上の特徴がある者が登場する絵本について、障害理解教材としての適切性を評価する研究を行っており、32点の絵本を取り上げている。これは、日本児童図書出版協会の会員である出版社から「幼児に障害児・者を理解させるために適切であると思われる絵本」として紹介された作品のうち、絶版等により調査時点で入手できなかったものを除いたリストとなっている。富永（2011）は、菊地ら（1990）および山口ら（1998）等を参考としながら1990年代半ば以降の作品を中心に選定し、21点の絵本および34点の児童文学を紹介している。従来のリストでは肢体不自由、視覚障害、聴覚障害等の「わかりやすい」障害が中心であったのに対し、このリストでは軽度発達障害や知的障害を扱った作品が比較的多く取り上げられている。また、ノンフィクションの読み物も含まれている。柴村（2012）は、「札幌えほん研究会」がテーマ別に作成しているリストの中から障害に関する絵本と、具体的な障害の紹介はないが何らかのハンディを感じさせる絵本を紹介している。56点のリストがあり、このうち9点の絵本については内容が紹介されている。このほかに、写真絵本および子ども向きに障害について解説した絵本16点のリストも掲載されている。

以上のように障害を扱った絵本のリストは複数あるが、紹介されている絵本の出版時期と障害の種類はリストごとに異なっており、多数の絵本の中から必要な絵本を探し出す際には複数の文献を調べなくてはならないうえ、一部には掲載されている絵本の重複もある。そこで本論では、先行研究のブックリストを統合し、より包括的なブックリストを制作することを目的とする。

## ブックリストの作成

先行研究には、菊地ほか（1990）、山口ほか（1998）、水野（2008）、富永（2011）、柴村（2012）を用いた。重複している作品を整理し、合計で305作品となった。文章が中心となっている児童文学を除くために、まず国立国会図書館のデータベースを用いて100ページ以下の作品を選択したところ、144点が残った。この144点のうち、2015年7月時点で絶版・品切れ・増刷未定等の事情により入手できなかった作品が65点ある。入手しやすさは絵本の活用しやすさと関係するため、こ

これらの作品はリストから除外した。また、児童文学と判断される本および点字絵本が13点あり、これらもリストから除外した。以上の手続きによって残った絵本66点のリストを表1に示す。なお、リスト中の障害種別は水野（2008）に倣い、「視覚障害」「聴覚障害」「肢体不自由」「知的障害」「その他の障害」「まわりと違う身体上の特徴があるもの」とした（表2）。出版年代別の作品数は、1970～79年が5点、1980～89年が16点、1990～99年が9点、2000～2010年が36点である。

## 考 察

本論では、先行研究のブックリストを統合し、より包括的なブックリストを制作した。このリストは、障害を扱った絵本を網羅しているわけではない。2015年時点で入手できた本に限定されている。リストに掲載されていない優れた絵本は他にも存在するであろうが、それらの本を「発見」するためにも基礎となるリストが必要であり、今回作成したリストが今後、より発展的なブックリストを制作するうえで役立つと考えられる。また、作成したリストは障害を扱った絵本リストではあるが、障害理解教育における有用性を吟味していない点は留意する必要がある。既に述べたように、障害の描かれ方はその時々、社会的背景から影響を受けており、出版時は適切と考えられた作品でも、現在の視点からは不適切な描かれ方と判断される場合などがあるかもしれない。作品の内容は、よく検討する必要がある。

優れた絵本とは何かを判断するのは難しいが、Ørjasæter（1981 藤田・乾訳 1989）は、障害児が主要人物のひとりとして登場し、その人物の心理描写がすぐれている本や、障害をもつ子どもが他の子どものごく自然に環境に馴染んでいるような本が必要であると述べている。また水野（2008）は、障害理解指導の教材としての適切性を検討するための項目を挙げている（表3）。これは大きく6項目から成り、①障害の状態・特性についての説明、②障害を示す挿絵、③障がい者との接し方・マナー・配慮についての説明、④障害の原因についての説明、⑤障がい者のもつ能力についての説明、⑥障害の永続性についての説明、となっている。

障害を扱う絵本の読み聞かせは、子どもに障害を理解させるという教育的な意図を持って実施されることが多い。しかし絵本は、理解する対象であると同時に、感じとる対象でもある（松居，1973）。障害があることの大変さを教えること以上に、何が大変なのかを感じとってもらうこと、障害ゆえの不自由さはあっても当たり前で生活していくことの「すごさ」を感じとれることが、障害を扱う絵本に必要なのではないかと桂（2006）は述べている。また絵本は、教訓や教育という要素と同時に、楽しさや面白さという要素を併せ持っている。障害理解という意図を持って絵本を用いる場合でも、まずは子どもが絵本を楽しめることが重要であろう。純粹に物語を楽しむことから、様々な気づきが生まれる。Ørjasæter（1981 藤田・乾訳 1989）はこれについて以下のように述べている。

障害をもつ子どもが登場する本は、同じような子どもに同一視の機会を与えてくれます。と同時に、障害をもたない子どもに、障害をもつとはどういうことなのかを教えてくれる貴重な情報源でもあります。私たちは、他の人の経験を読んで安心するということが少なくありません。他人の経験を知ることによって、自分自身の立場を、より広い視野の中でながめられるようになることもあります。たとえ生活の条件や状況がまったく違っても、自分と同じ

経験をしている人がいるとわかれば、読む人の心はやすらぎます。物語を読むことによって読み手の目が開かれ、新しい見通しがもてたり何かに気づいたり、現状を受け入れられるようになることも少なくありません。(Ørjasæter, 1981 藤田・乾訳 1989, pp. 114-116)

一般に絵本は子どものためのものというイメージが強い。しかし、短い時間でストーリーを読み終えられるうえに、障害のある人の姿を視覚的にとらえて感じとることができる点は、中高生や大人にとっても価値がある。今後は、より優れた図書に絞り込んだブックリストを作成する必要があるが、そのリストには、障害理解に関心を持つ人々が必要な絵本を選択できるよう、本の詳細な内容紹介が含まれていることが望ましいだろう。

## 引用文献

- 半澤嘉博・森村祐子・伊藤安代 (2012). 障がい理解教育のための児童用資料の作成と活用について～小学校における交流及び協同学習の推進のための教材の開発～ 東京家政大学生活科学科研究報告, 35, 33-35.
- 攪上久子 (2015). ごあいさつ パリアフリー絵本 (<http://www.bf-ehon.net/goaisatsu>) (2015年9月29日)
- 桂 律也 (2006). パリアフリー・ノーマライゼーションを感じる絵本 ノーマライゼーション: 障害者の福祉, 26(2), 60-61.
- 菊地澄子・長谷川 潮・荒 未知子 (1990). やさしさと出会う本: 「障害」をテーマとする絵本・児童文学のブックガイド ぶどう社
- 木村有里 (2009). 学校での危機介入を支援するためにー「子どものグリーフケア」に役立つブックリストを作るー 大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター紀要, 1, 35-48.
- 黒川亜希子・是永かな子 (2006). 障害理解教育の実際と課題ー高知市立小学校における取り組みを中心にー 発達障害研究, 28(2), 167-179.
- 松居 直 (1973). 絵本とは何か 日本エディタースクール出版部
- 水野智美 (2008). 幼児に対する障害理解指導ー障害を子どもたちにどのように伝えればよいかー 文化書房博文社
- 柴村紀代 (2012). パリアフリー (障がいを考える) 絵本の現状と課題 藤女子大学紀要, 49(Ⅱ), 137-146.
- 田畑精一・先天性四肢障害児父母の会・野辺明子・志沢小夜子 (1985). さっちゃんのみほうのて 偕成社
- 富永光昭 (2011). 小学校・中学校・高等学校における新しい障がい理解教育の創造ー交流及び協同学習・福祉教育との関連と5原則による授業づくり 福村出版
- 山口洋史・山田優一郎・障がい児と児童文学研究会 (1998). 知的障害をどう伝えるかー児童文学の中の知的障害児文理解
- Ørjasæter, T. (1981). *The Role of Children's Books in Integrating Handicapped Children into Everyday Life*. Unesco. (ウーリアセーター, T. 藤田雅子・乾侑美子 (訳) (1989). 本は友だち: 障害をもつ子どもと本の出会いのために 偕成社)

表1 障害を扱う絵本のリスト

書名	出版年	著者(編者)	出版社	ページ数	障害種別	備考
はせがわくんきらいや	1976	長谷川集平(作)	すばる書房	32	肢体不自由	
指で見る	1977	トーマス・ベリイマン(写真・文)	偕成社	72	視覚障害	写真絵本
わたしたちのトビアス	1978	セシリア・スベドベリ(編)	偕成社	52	知的障害	ダウン症
だれがわたしたちをわかってくれるの	1979	トーマス・ベリイマン(写真・文)	偕成社	73	肢体不自由	写真絵本
からすたろう	1979	やしまたろう(文・絵)	偕成社	35	知的障害	
わたしいややねん	1980	吉村敬子(文) 松下香住(絵)	偕成社	48	肢体不自由	
ボスがきた	1980	たけうちまさき(絵) まじまかつみ(字)	偕成社	40	知的障害	
うさぎぐみとこぐまぐみ	1980	かこさとし(絵・文)	ポプラ社	36	知的障害	ダウン症
みんなみんなぼくのともだち	1980	福井義人(文) 高田真理子 [ほか](絵) 福井達雨(編)	偕成社	52	知的障害	
だれもしらない	1981	灰谷健次郎(文) 長谷川集平(絵)	あかね書房	32	肢体不自由	
なぜ、目をつぶるの?	1981	トーマス・ベリイマン(写真・文)	偕成社	36	肢体不自由	写真絵本
こわいことなんかあらへん	1981	福井達雨(編) 馬嶋克美(絵・字)	偕成社	54	知的障害	
みなみの島へいったんや	1982	止揚学園の子ども(作) 馬嶋克美(字) 福井達雨(編)	偕成社	31	知的障害	
わたしの妹は耳がきこえません	1982	ジーン・ピーターソン(作) デボラ・レイ(絵)	偕成社	30	聴覚障害	
もうどうけんドリーナ	1983	土田ヒロミ(作)	福音館書店	28	視覚障害	写真絵本
あつおのぼうけん	1983	田島征彦/吉村敬子(作) マーグレット・E.レイ(文)	童心社	40	肢体不自由	
おかえりなさいスポッティ	1984	H. A.レイ(絵)	文化出版局	30	まわりと違う	
さっちゃんのまほうのて	1985	たばたせいいち [ほか](作)	偕成社	40	肢体不自由	
ぼくのだいじなあおいふね	1986	ディック・ブルーナ(絵) ピーター・ジョーンズ(文)	偕成社	22	聴覚障害	
雨のにおい 星の声	1987	赤座憲久(文) 鈴木義治(絵)	小峰書店	32	視覚障害	
虔十園林	1987	宮沢賢治(作) 伊藤亘(絵)	偕成社	36	知的障害	
車いすのマティアス	1990	トーマス・ベリイマン(写真・文) 石井登志子(訳)	偕成社	40	肢体不自由	写真絵本
ベトちゃんドクちゃんからのてがみ	1991	松谷みよ子(文) 井口文秀(画)	童心社	32	肢体不自由	
チャーリーブラウンなぜなんだい?	1991	チャールズ・M.シュルツ(作) 細谷亮太(訳)	岩崎書店	43	その他	白血病
青い馬の少年	1995	ビル・マーティン Jr./ジョ ン・アーシャンボルト(文) テッド・ランド(絵)	アスラン書房	32	視覚障害	
ぼくたちのコンニャク先生	1996	星川ひろ子(写真・文)	小学館	35	肢体不自由	写真絵本
ベカンの木のぼったよ	1996	青木道代(文) 浜田桂子(絵)	福音館書店	32	肢体不自由	
せなかをとんとん	1996	最上一平(作) 長谷川知子(絵)	ポプラ社	40	聴覚障害	
夕あかりの国	1999	アストリッド・リンドグリーン(文) マリット・テルンクヴィスト(絵)	徳間書店	41	肢体不自由	
ぼくのいのち	1999	細谷亮太(作) 永井泰子(絵)	岩崎書店	27	その他	白血病
こいぬのうんち	2000	クオン・ジョンセン(文) チョン・スングク(絵)	平凡社	32	まわりと違う	
くつが鳴る	2000	手嶋洋美(作) あべまれこ(絵)	BL出版	32	肢体不自由	
かっくん どうしてボクだけしかくい の?	2001	クリスチャン・メルベイユ(文) ジョス・ゴフィン(絵)	講談社	25	まわりと違う	
また、あおうね	2001	宮崎二美枝(脚本) 高橋透(絵)	童心社	12	まわりと違う	紙芝居
キツネ	2001	マーガレット・ワイルド(文) ロン・ブルックス(絵)	BL出版	32	肢体不自由 視覚障害	

ありがとう、フォルカーせんせい	2001	バトリシア・ボラッコ (作・絵)	岩崎書店	39	その他	LD
みんなのあかちゃんモルモット	2001	今関信子 (脚本) 夏目尚吾 (絵)	童心社	12	知的障害	紙芝居
だめよ、デイビッド!	2001	デイビッド・シャノン (作)	評論社	32	その他	ADHD
スマッジがいるから	2001	ナン・グレゴリー (作) ロン・ライトバーン (絵)	あかね書房	31	知的障害	ダウン症
ゆっくりゆっくり	2001	岡田なおこ (脚本) 尾崎曜子 (絵)	童心社	12	肢体不自由	紙芝居
みえないってどんなこと	2002	星川ひろ子 (写真・文)	岩崎書店	32	視覚障害	写真絵本
スーザンはね・・・	2002	ジーン・ウィリス (文) トニー・ロス (絵)	評論社	28	肢体不自由	
ぼくは海くんちのテーブル	2002	西原敬治 (文) 福田岩緒 (絵)	新日本出版社	32	肢体不自由	
山頂にむかって	2002	ステイーナ・アンデション (文) エバ・ペーンリード (写真)	愛育社	75	知的障害	写真絵本
14の心をまいて	2002	つちだよしはる (作・絵)	PHP研究所	33	聴覚障害	
わたしの足は車いす	2004	フランツヨーゼフ・ファイニク (作) フェレーナ・バルハウス (絵)	あかね書房	25	肢体不自由	
どんなかんじかなあ	2005	中山千夏 (文) 和田誠 (絵)	自由国民社	32	視覚障害 聴覚障害 肢体不自由	
見えなくてもだいじょうぶ?	2005	フランツヨーゼフ・ファイニク (作) フェレーナ・バルハウス (絵)	あかね書房	25	視覚障害	
ぼくの耳ってすごいんだぞ	2006	北村小夜 (監修) 嶋田泰子 (文) 内藤裕 (写真)	ポプラ社	55	視覚障害	写真絵本
おんちゃんは車イス司書	2006	河原正実 (原案) 梅田俊作 (作・絵)	岩崎書店	56	肢体不自由	
ゆめ、ぜったいかなえるよ	2006	北村小夜 (監修) 嶋田泰子 (文) 内藤裕 (写真)	ポプラ社	55	肢体不自由	写真絵本
ぼくって、ふしぎくん?	2006	北村小夜 (監修) 嶋田泰子 (文) 岡本順 (絵)	ポプラ社	55	その他	ADHD
ディスレクシアってなあに?	2006	ローレン・E.モイニハン (著) トム・ディニーオン (イラスト)	明石書店	43	その他	LD
やっちゃんがいく!	2006	北村小夜 (監修) 佐藤陽一 (文) 坂本真典 (写真)	ポプラ社	55	その他	自閉症 写真絵本
ゆっくりって、いいな	2006	北村小夜 (監修) 嶋田泰子 (文) 坂本真典 (写真)	ポプラ社	55	知的障害	ダウン症 写真絵本
学校つくっちゃった!	2006	エコール・エレマン・プレザン (著)	ポプラ社	32	知的障害	ダウン症 写真絵本
わたしたち手で話します	2006	フランツヨーゼフ・ファイニク (作) フェレーナ・バルハウス (絵)	あかね書房	25	聴覚障害	
おしゃべり、だいすき	2006	橋本一郎/北村小夜 (監修) 嶋田泰子 (文) 内藤裕 (写真)	ポプラ社	55	聴覚障害	写真絵本
車いすのおねえちゃん	2007	ステファン・ボーネン (作) イナ・ハーレマンズ (絵)	大月書店	30	肢体不自由	
ことばの障がいてなあに?	2007	ジョン・E・ブライアント (著) トム・ディニーオン (イラスト)	明石書店	37	その他	言語障害
きこえの障がいてなあに?	2007	エレイン・アーンスト・シュナイダー (著) トム・ディニーオン (イラスト)	明石書店	35	聴覚障害	
トゥレット症候群ってなあに?	2007	ティラ・クルーガー (著) トム・ディニーオン (イラスト)	明石書店	33	その他	トゥレット 症候群
キャシーのぼうし	2007	トルーディ・クリシャー (文) ナディーン・バーナード・ウェストコット (絵)	評論社	32	その他	小児がん
おいでよルイス!	2009	レスリー・エリー (作) ポリー・ダンバー (絵)	フレーベル館	26	その他	自閉症
ADHDってなあに?	2009	エレン・ワイナー (著) テリー・ラバネリ (イラスト)	明石書店	43	その他	ADHD
トーベのあたらしい耳	2010	トーベ・クルベリ (作) エッマ・アードボーグ (絵)	少年写真 新聞社	33	聴覚障害	

表2 障害の分類

障害種別	下位分類項目
視覚障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視覚障害のある人</li> <li>・ 盲導犬</li> <li>・ 点字</li> </ul>
聴覚障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 聴覚障害のある人</li> <li>・ 聴導犬</li> <li>・ 手話・指文字</li> </ul>
肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 車いす使用者</li> <li>・ (車いすを使用しない) まひのある人</li> <li>・ (車いすを使用しない) 四肢欠損の人</li> <li>・ 介助犬</li> </ul>
知的障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知的障害のある人</li> </ul>
その他の障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 軽度発達障害のある人 (自閉症・LD (学習障害)・ADHDなど)</li> <li>・ 病弱・身体虚弱のある人</li> <li>・ 言語障害のある人 (※表1では「その他」と表記)</li> </ul>
まわりと違う身体上の 特徴があるもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上記以外の身体的特徴 (肌の色が違う・まわりと違う姿をしているなど) (※表1では「まわりと違う」と表記)</li> </ul>

表3 障害理解指導の教材としての適切性を検討するための項目

(水野, 2008, p. 131をもとに作成)

① 障害の状態・特性についての説明
i) 障害の状態・特性についての説明の有無
ii) 障害の状態・特性についての説明に具体性があるか
iii) 幼児が自分の身体との違いを認識できる説明であるか
iv) 不適切な説明、ネガティブなイメージをもたせかねない内容が含まれていないか
② 障害を示す挿絵
i) 視覚的に障害があることがわかる挿絵であるか
ii) 誤った描かれ方をしているものはないか
③ 障害者との接し方・マナー・配慮についての説明
i) 障害者との接し方・マナー・配慮の説明の有無
ii) 障害者との接し方・マナー・配慮の説明に具体性があるか
iii) 幼児が実行できる内容が書かれているか
iv) 不適切な説明、ネガティブなイメージをもたせかねない内容が含まれていないか
④ 障害の原因についての説明
i) 障害の原因の説明の有無
ii) 障害の原因を幼児が理解できるように説明されているか
iii) 不適切な説明、ネガティブなイメージをもたせかねない内容が含まれていないか
⑤ 障害者のもつ能力についての説明
i) 障害者のもつ能力についての説明の有無
ii) 障害者のもつ能力についての説明に具体性があるか
iii) 幼児が理解できる内容が書かれているか
iv) 不適切な説明、ネガティブなイメージをもたせかねない内容が含まれていないか
⑥ 障害の永続性についての説明
i) 障害の永続性に関する説明の有無
ii) 障害の永続性に関する説明に具体性があるか
iii) 幼児が納得できる説明であるか
iv) 不適切な説明、ネガティブなイメージをもたせかねない内容が含まれていないか